

NEWS LETTER

TOPICS

#1 Dockerコンテナの保守を
スタートしました!

#2 新しいLinuxOS
「Red Hat Enterprise Linux 9.0」「AlmaLinux 9.0」

#3 2月27日(月)
セミナー開催決定!!

* TOPICSの各タイトルをクリックすると該当の記事へ飛びます

#1 Dockerコンテナの保守をスタートしました!

いつも弊社保守サービスMSPアシスト・AWSアシストをご利用いただきありがとうございます。
この度、MSPアシスト・AWSアシストのオプションとしてコンテナ監視・保守サービスをリリースしました。
コンテナを利用しているけれど、監視は特に行ってないという方は、ぜひこの機会に監視・保守の導入をご検討ください!

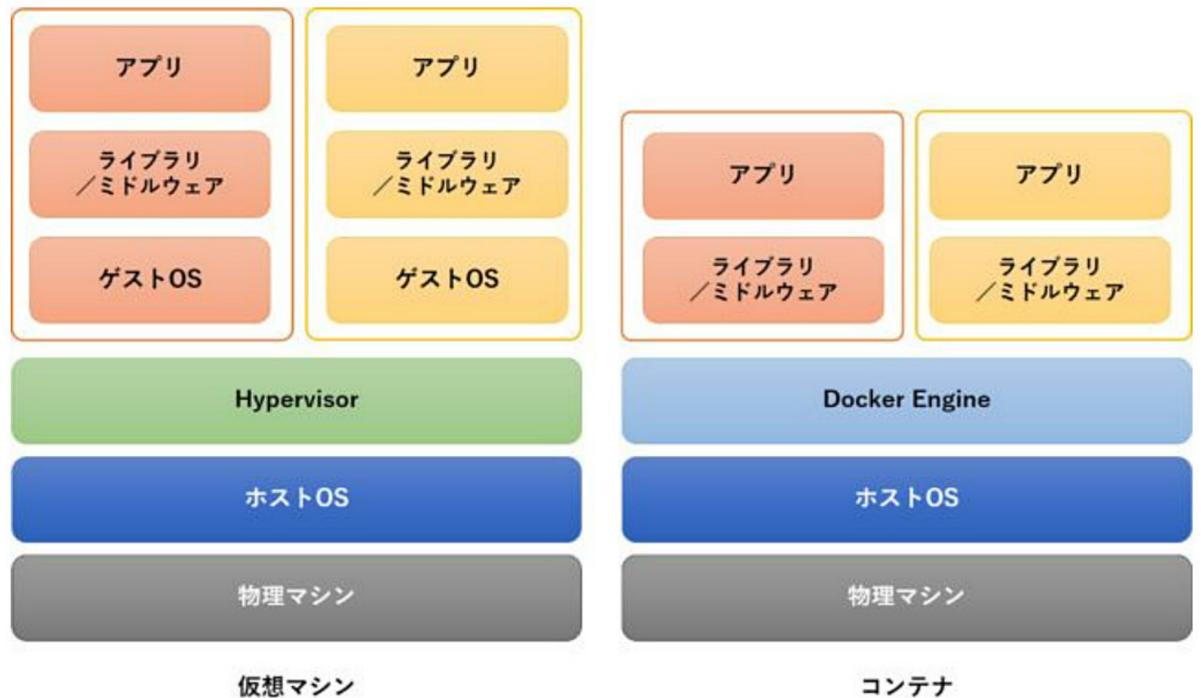
PICK
UP!

Docker とコンテナとは?

Dockerはサーバー上で使用される「データやプログラムを隔離できる仕組み」のことです。
サーバー上の別空間に、データやプログラムを隔離した物置をコンテナと呼びます。コンテナを使える仕組みがDockerで、
このDockerを使用するには、Dockerソフトウェアの『Docker Engine』をインストールする必要があります。

■ 仮想マシンとの違い

コンテナはホストマシンのカーネルを利用し、プロセスやユーザを隔離することで、あたかも別のマシンが動いているかのように動かすことができます。
そのため、コンテナは軽量で高速に起動、停止が可能です。



■ コンテナを利用するメリット

① イメージからの作成が可能

コンテナはイメージから作成をします。イメージはコンテナを作るための設計図のようなものです。このイメージを利用すれば同じ環境のコンテナを複数作成できます。逆に作成したコンテナから、イメージを生成することもできます。
また、このようなイメージをダウンロードできるDocker Hubも存在します。

② 環境の統一や最新化がしやすい

上記のように、イメージの作成ができるため、開発時などにスタッフ間で開発環境の統一や最新化が簡単にできます。
手元のコンテナを削除→最新のイメージをDockerイメージのレジストリからダウンロード→コンテナ再作成という流れでコンテナの内容が最新になります。

③ 開発時のイメージをステージング環境や本番環境へデプロイ可能

本番環境用のDocker実行サーバーを用意すれば、あとは開発環境の時に構築したイメージからコンテナを起動すればデプロイできます。
複数のコンテナが必要な場合も1つのイメージから複数デプロイでき、作業工数を削減できます。

④ 同一サーバー内に違うバージョンのミドルウェアを導入可能

コンテナ間で環境が隔離されているので、同一サーバーで違うバージョンのミドルウェアが複数必要になった場合でも、別々のコンテナ内で動かすことができます。

■ ネットアシストの監視・保守

コンテナ実行サーバ (EC2やWebサーバなど) のご契約がゴールドプラン・ゴールドプラスプランのお客様はコンテナ保守オプションが追加できます。

▼ 標準のアラート通知項目

- コンテナの総数
- コンテナの実行数
- コンテナ停止数
- コンテナ一時停止数
- Dockerサービス自体の起動状態

※お客様の環境によって通知の項目などは変わります。
詳細は担当営業までお問い合わせください。

▼ 障害対応

お客様よりご共有いただいた手順書を元に障害対応を実施いたします。
もし手順書の対応で復旧しない場合は、お客様へエスカレーションいたします。

▼ オプション料金

コンテナオプション利用の際はホストサーバの保守契約がゴールド・ゴールドプラスプラン以上である必要があります。

① MSPアシスト コンテナオプション

	シルバー	ゴールド
初期費用 (Dockerエンジン1台当たり)	30,000円～	30,000円～
月額費用 (コンテナ台数に応じて) ※5台ごとに10,000円増額	1台～5台 15,000円	1台～5台 20,000円
	6台～10台 25,000円	6台～10台 30,000円
	11台～15台 35,000円	11台～15台 40,000円
	16台～20台 45,000円	16台～20台 50,000円
プラン内容		
Docker監視・障害時連絡	○	○
障害1次対応 (手順書必須)	×	○
コンテナイメージの変更	×	×

② AWSアシスト コンテナオプション

	シルバー	ゴールド
初期費用 (Dockerエンジン1台当たり)	30,000円～	30,000円～
月額費用 (コンテナ台数に応じて) ※5台ごとに10,000円増額	1台～5台 15,000円	1台～5台 20,000円
	6台～10台 25,000円	6台～10台 30,000円
	11台～15台 35,000円	11台～15台 40,000円
	16台～20台 45,000円	16台～20台 50,000円
プラン内容		
Docker監視・障害時連絡	○	○
障害1次対応 (手順書必須)	×	○
コンテナイメージの変更	×	×
ECS	初期費用:30,000円～	月額費用:5,000円~/サービス
Fargate	Fargateは監視せず、Fargate上のコンテナのみ監視いたします。※コンテナ数での課金のみ	

今回は新たにリリースしたコンテナ監視・保守オプションを紹介しました。
コンテナ保守サービスに関して少しでもご興味があれば、お気軽に担当営業までご連絡ください!

#2 新しいLinuxOS

「Red Hat Enterprise Linux 9.0」 「AlmaLinux 9.0」

2020年に突如として発表された、「CentOS」の終了に伴い、様々なRHEL互換のOSの開発が続いています。ネットアシストとしては、CentOSの後継OSとして「AlmaLinux8」をお客様におすすめしておりますが、CentOS同様、突然の開発終了のリスクもゼロではありません。サポート期限の保証がある、商用のLinuxOS 「Red Hat Enterprise Linux8」(以下、RHEL8)をご利用頂くお客様も増えております。

※CentOSの後継OSについては、過去のニュースレター記事でも取り上げておりますので、[バックナンバー](#)をご確認ください。

今回は、2022年5月に公開された、「Red Hat Enterprise Linux 9.0」 「AlmaLinux 9.0」 について特徴やサポート期限、対応クラウドやソフトウェアをご紹介します。

昨年の5月にアメリカのRed Hat社より、商用のLinuxOSである「Red Hat Enterprise Linux 9.0」(以下、RHEL9)がリリースされました。2019年にRHEL8がリリースされたので、3年で新しいバージョンがリリースされたこととなります。今までのリリース間隔からすると、非常に速いリリースですが、実はRHEL8からは「メジャーバージョンのリリースを3年おきに行う」という方針となり、RHEL9はその方針通りにリリースされたようです。パフォーマンスの改善、Webブラウザでサーバを管理できるRHEL Web Console(Cockpit)の機能強化や、Ansibleでの自動化の拡充、セキュリティ面では、TLS 1.0/1.1等の無効化や、OpenSSL3もサポートするようになりました。

そして、RHELの互換ディストリビューションであるAlmaLinux9もRHEL9のリリース後、すぐに公開されています。特徴や変更点はRHEL9同様です。(AlmaLinuxと比較されることの多いRockyLinux9は少し遅れて7月に公開)

■ サポート期限

RHEL9

- ・メンテナンスサポート終了:2032年5月31日
- ・ELS終了:2034年5月31日

AlmaLinux9

- ・セキュリティサポート終了:2032年5月31日

■ 各社クラウドサービスのイメージ対応状況

弊社のパートナーベンダーや、実績のあるクラウドを中心にご紹介

	AWS	さくらのクラウド	IDCFクラウド	Azure	IJ
RHEL9	○	×	×	○	×
AlmaLinux9	○	○	×	○	×

※2023年1月時点

■ 各ソフトウェアやセキュリティ製品の対応状況

弊社で導入する事が多いセキュリティソリューションや管理ツールを中心にご紹介

	WAF攻撃遮断くん	IPS/IDS DSIPS	アンチウイルス ESET	サーバ管理ツール Plesk	バックアップサービス Acronis
RHEL9	×	○	○	○	×
AlmaLinux9	×	×	×	○	×

※2023年1月時点

人気だった無償のLinuxOS「CentOS7」も来年の6月30日にサポートが終了します。現状も利用されているお客様が非常に多く、サポート期限終了前には、多数のお客様からリプレイス相談が殺到すると予想されますので、お早めにRHEL9やAlmaLinux9へのリプレイスをご検討されてはいかがでしょうか。

#3 2月27日(月) セミナー開催決定!!

この度、『【Webサイト高速化セミナー】WordPressの高速化ってどうやるの?』と題し、セミナーを開催いたします。
今回は、同じSOUTENグループでWEB制作会社である「株式会社トラム」との2社合同セミナーです。

オンライン トラム × NET ASSIST 共同セミナー

【Webサイト高速化セミナー】 WordPressの高速化ってどうやるの?

～ WordPress & サーバーのプロが解説! ～

2023年2月27日(月) 14:00～
参加費：無料 開催場所：zoom

セミナー内容

- ☑ 表示速度はユーザー行動にどう影響するか?
- ☑ 現状確認「PageSpeedInsight」と「コアウェブバイタル」
- ☑ 画像ファイルの最適化とは? ☑ 不要なプラグインやデータの確認と削除
- ☑ サーバースペックやミドルウェアとサイト表示の関係
- ☑ CDNの導入でサイト表示のスピードアップ ☑ 質問タイム

日程 2023年2月27日(月) **参加費** 無料 **開催方法** 定員100名
14:00～15:00

セミナー内容

「サイトの表示速度」がどれほどユーザの動向に影響を及ぼすかをご存じでしょうか。
せっかく見栄えの良いサイトや検索エンジン対策(SEO)に費用をかけても、ページの読み込み速度が遅いと成果があがりません。
今回のセミナーでは、世界で約8割という圧倒的シェアを誇るCMS、「WordPress」の高速化について、WEB制作会社トラム代表の田中一彦氏をゲストに迎え、具体的な高速化の手法を解説して参ります。
また、インフラ側で出来る高速化も併せてご紹介して参りますので、ぜひご参加くださいませ。

詳細の確認・お申込みは下記専用サイトからお願いいたします。

https://www.netassist.ne.jp/wordpress_hispeed_webinar/

